

第6章

2. 私たちにできる心のケア②

副読本
42～43ページ

年 組 番 氏名

2

東日本大震災では、避難が長期間に及びました。さらに、今なお仮設住宅などでの生活を余儀なくされている方々もいます。避難している方々、仮設住宅で暮らす方々はどんな思いで生活をされているかを考えてみましょう。

3

避難している方々、仮設住宅で暮らす方々の心に寄り添うこととして、私たちにできることはないか考えてみましょう。

中学生の手による息の長い支援

大河原町立大河原中学校は、内陸部に位置し、震災による被害が比較的軽い地域の学校です。震災後、被災地の報道の映像や新聞記事を見聞きした生徒たちは、復興には長い時間がかかると考え、被災した方々からさまざまなニーズを聞きました。そこでベンチを手作りし、震災から7か月後に岩沼市の仮設住宅に届けました。設置後、雨や風に当たったベンチを紙やすりで細かく磨くなどのリフォームにも訪れています。また、慰問演奏会やクリスマスには手作りしたツリーを届けて、飾りを楽しんでもらうことも続けています。

このように、避難者の方々の窮屈な生活からの癒しや安心につながるよう、継続的に関わっています。



手作りベンチのリフォーム



仮設住宅に飾ったツリー

4

災害時だけでなく、不安な気持ちなどをもっている友達に、どう関わっていけば気持ちを和らげることができるかを考えてみましょう。